

## 令和5年度第2回さいたま市青少年宇宙科学館運営委員会 議事録

### 1 開催日時

令和6年3月6日（水） 15時00分から16時30分

### 2 開催場所

青少年宇宙科学館 2階 団体抛室

### 3 出席者

#### 【委員：7名】

- ① 大向 隆三委員長
- ② 鶴ヶ谷 柊子委員
- ③ 菅野 千香子委員
- ④ 佐久間 由記委員
- ⑤ 鈴木 伸嘉委員
- ⑥ 木村 良治委員
- ⑦ 引間 陽子委員

#### 【事務局：5名】

- ① 辻 美由紀（教育委員会生涯学習部長）
- ② 豊田 由香（青少年宇宙科学館館長）
- ③ 安藤 紘子（青少年宇宙科学館主任指導主事兼事業係長）
- ④ 和久井 剛志（青少年宇宙科学館主任指導主事）
- ⑤ 林 竜矢（青少年宇宙科学館主任指導主事）

### 4 欠席者

- ① 饗庭 加和委員
- ② 野平 尚彦委員
- ③ 田邊 広昭委員

### 5 議題

- (1) 令和5年度 事業報告について
- (2) 令和6年度 事業予定について
- (3) その他

・議事（１）令和５年度 事業報告について

鈴木委員：若田アカデミー等、応募人数が多いものに対して、応募人数を広げ過ぎてしまうとよりよい運営ができないのではないか。

事務局：生涯学習情報システムのページにおいて参加の仕方等、注意喚起しております。

鈴木委員：若田宇宙飛行士アカデミースペースコースの応募の人数は増やすのか。

事務局：参加人数は現状のまま２４人で考えております。  
ただし、どなたでも参加できるワークショップを考えております。

菅野委員：はじめてのプラネタリムの対象年齢はいくつか。

事務局：「どなたでも」として、対象年齢は定めておりません。

引間委員：コロナウイルス感染症５類移行を意識した運営の転換をしたことで、市民の声に、変化はあったか。

事務局：大変好意的な意見をいただいております。  
ただ、来館者が増えると、館の駐車場が少ない関係で、車が停められない、道路で待つ車が危険などの声もあがってきています。

木村委員：入館者数・プラネタリウム数の来館者の住所の割合はどのようになっているのか。

事務局：アンケートに答えていただいた内、埼玉県外７％、埼玉県内１２％、さいたま市内８１％となっています。  
旧浦和市の割合が半数以上となっております。

鶴ヶ谷委員：来館者は昼食をどうしているのか。

事務局：持参が多いが、ふれあい広場のパン等の軽食を購入されています。

鶴ヶ谷委員：来館者は1日いるということか。

事務局：1日いらっしゃる方もおられます。各種館内イベントの実施時間をずらし、1日いられる工夫をしております。

大向委員長：高校生向けの取り組みはどのようなものがあるか

事務局：高校生ロケット大会、サイエンスフェスティバルへの参加を呼び掛けています。また、若田アカデミースペースコースでは、アドバイザーとして参加をお願いしています。

大向委員長：他課との連携、特に国際芸術祭との連携は、アートに関することを意識しているのか。

事務局：科学館としては、アートの「A」の部分を表現力としてとらえ、考えをアウトプットすることをねらいとして行っております。

#### ・議事（2）令和6年度 事業予定について

鈴木委員：少子化の現在を考えると、対象が低年齢であると来館者数を維持するのが限界なのではないか。対象年齢を大人に広げる必要があるのではないか。

例えば、宇宙をテーマにしたグルメ等を取り上げるなど、多角的に視野を広げてみてもいいのではないか。令和6年度に検討し、令和7年度に実施できないか。

事務局：ご指摘の通り、対象年齢を広げる取り組みを検討してまいります。

大向委員長：「宇宙のまち さいたま」記念フォーラムでのイベント VR を駆使した宇宙の疑似的体験は面白そうなので、ぜひお願いしたい。

事務局：運営委員の方にも体験していただきたい。企業の方からは、大学生に運営に関わってもらいたいとの声もあります。

青少年が参加できる取り組みを検討してまいります。

佐久間委員：対象年齢や価格帯等で、対象の幅を広げていただきたい。

事務局：上手に広報しながら広げてまいります。

・議事（3）その他

2館（青少年宇宙科学館と宇宙劇場）について

豊田館長：宇宙劇場の年報をCDにしておりますので、ご覧いただけますようお願いいたします。

宇宙劇場では、消防音楽隊ファミリーコンサート、ほし×こえ、大宮DOMとの連携、高校生プラネタリウム文化祭等の事業を行っております。

プラネタリウムの番組数が多く、平日5回・休日6回の投映を行っております。

次回、宇宙劇場についてもご意見をいただきますようお願いいたします。

宇宙劇場の視察の件について

鈴木委員：市民大学「プラネタリウム解説員になろう」を視察した。

公共施設に関しては、税金の無駄遣いではないかという、声が出る。しかし、学習という分野において費用対効果で分析すべきなのか疑問を感じました。

入場者数は目に見える数字としては分かりやすいが、子どもたちに与えた影響を数値化して議論が行われたかと考えると疑わしい。

更なる来場者を求めるための議論として、2つ問題提起いたします。

- ① 施設の改善
- ② 施設管理者への権限譲渡と、早期議会での条例改正  
(簡単にできることではないと思う。)

事務局：広い視野で鈴木委員からご意見をいただきました。

年報をご覧いただき、次回の運営委員会でも引き続き意見をいただきますようお願いいたします。

追加資料

※ 青少年宇宙科学館における来館者の内訳（さいたま市内）

西区2% 北区13% 大宮区4% 見沼区9% 中央区6%

桜区2% 浦和区29% 南区17% 緑区15% 岩槻区3%